

# そよ風

第8号

今治市立立花中学校

## 感染症から生まれる差別・偏見を どうなくしていくかを考えていきましょう

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校を含めた日常生活にも、一部に制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いております。以前までとは違う生活様式に変化していく中で、感染症に対する不安や感染者などへの差別・偏見などが社会問題となっているのも事実です。

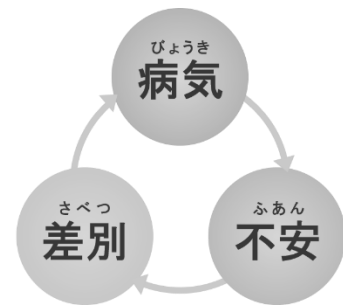
学校でも、感染予防を続けていきますが、新型コロナウイルス感染症には誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきています。そこで、今回、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの”感染症”」の考え方をもとに、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見について考えていきましょう。



### 3つの“感染症”とは？

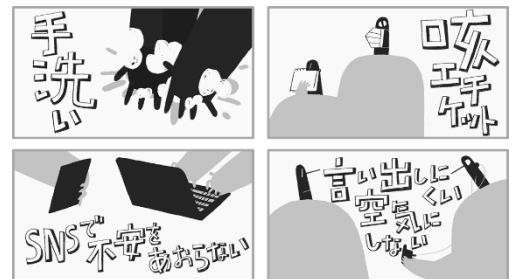
- ① “病気”そのものの感染症
- ② “不安”という気持ちの感染症
- ③ “差別・偏見”という意識の感染症

この3つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきま



### Check 負のスパイラルを断ち切るためにできること

- ① ウイルスの感染をひろげないために…  
まずは 手洗い・咳エチケットの徹底、3密を避け、自分自身の感染症予防を徹底して行う。
- ② 不安にふりまわされないために…  
情報源のはっきりしないうわさ話はしない・広げないこと
- ③ 差別や偏見を広げないために…  
言い出しにくい空気をつくらないこと



こちらから動画を公開しています。ぜひ、おうちのかたも御覧になっていただき、感染症に関わる社会問題について御家庭でも、話し合ってみてください。

日本赤十字公式

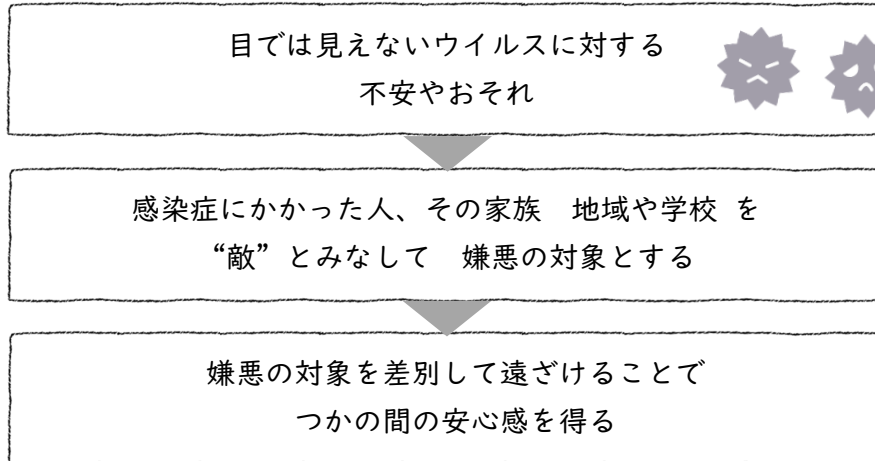




## 感染症から差別や偏見が生まれる理由



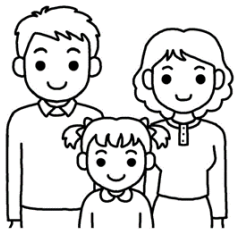
人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすり替えます。感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別や偏見」につながっています。



新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でも感染する可能性があります。戦うべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを乗り越えましょう。

### 動画を見た生徒の声

- ウイルスが目に見えないことで不安になり、その不安な気持ちが差別や偏見につながってしまうことがわかった。確実でない情報にはまどわされないようにしようと思った。
- 自分でできる感染症対策はこれからもきちんと続けていきたい。もし周りの友達で感染症に感染してしまい、また元気になって登校できるようになったらいつものように迎えようと思う。
- 私はこれまでに、うわさレベルの話を信じて、その場所を恐れたり、その周辺の人を疑ったりする気持ちがありました。これからは、不確かなうわさ話には気を付けたいと思います。



### 御家庭でも御協力をお願いします。

新型コロナウイルスのニュースを見ながら、「△△地域から来ないでほしい」「あそこの人、コロナになったらしいわよ。怖いよね。」など何気なく発した大人の言葉を子どもたちは聞いています。

この感染症に対する大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方にも大きく影響します。学校でも、様々な場面を通して、継続して指導していきますが、御家庭でも子どもたちが感染症に対する正しい理解のもとに適切に行動できるよう、御協力よろしくお願いたします。